

令和4年度第1回 奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要	
開催日時	令和4年10月26日（水）午前10時00分から11時45分まで
開催場所	奈良市役所 中央棟3階 301会議室
参加者	出席者4人（欠席者2人）、事務局3人
開催形態	公開（傍聴人1人）
担当課	環境部 環境政策課
案件	1. 「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」令和4年度（令和3年度実績）評価コメントのとりまとめについて 2. 第3次奈良市環境基本計画の推進について
資料	【資料1】令和4年度（令和3年度実績）指標評価コメントとりまとめ案 【資料2】指標別点検評価基準表 【資料3】令和4年度（令和3年度実績）担当課自己評価シート 【資料4】令和4年度（令和3年度実績）評価コメント抜粋 【資料5】奈良市ゼロカーボン戦略策定について 【チラシ】動き出すSDGs 2050 ワークショップチラシ
意見等の内容	
≪意見を求めた内容及びそれらに対する意見等≫ （1）「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」令和4年度（令和3年度実績）評価コメントのとりまとめについて 「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」令和4年度（令和3年度実績）評価コメントのとりまとめについて、「奈良市環境基本計画（改訂版）中間見直し」の各指標に関する令和3年度施策実績及び担当課の自己評価に対して、参加者皆様からいただいたコメントを事務局で整理した。 今回も、より多くの意見をとりまとめに反映したいと考え、【資料4】「令和4年度（令和3年度実績）評価コメント抜粋」において、参考としたい文言を箇条書きで抜粋している。抜粋したコメントの他に、とりまとめに反映していきたいコメントや重要なキーワードなどがあればご意見をいただきたい。また、【資料1】「令和4年度（令和3年度実績）指標評価コメントとりまとめ案」において、抜粋したコメントからとりまとめ案を作成したものを掲載している。本日、参加者皆様からいただいたご意見を元に、とりまとめ案を修正し、後日	

ご確認をお願いする予定である。その後、とりまとめ案を環境審議会でご確認いただいたのち確定し、速やかに担当課へフィードバックする予定である。

各指標の評価コメントとりまとめ案及び総括コメントとりまとめ案についてご意見をいただいた。

○質疑・意見の要旨

<地球温暖化対策分野（シート No. 1～4）について>

- ・地球温暖化対策分野の4つの指標についてすべて総合評価Aとなっており、評価コメントとりまとめ案についても意見がきちんと反映されていることから、特に修正はない。
- ・4つの指標すべてにおいて昨年度からの進捗が現状維持で総合評価Aとなっているものの、現状に甘んじないでほしい。世界から見たらこのままで良いわけではなく、さらなる対策を進めていただきたい。2050年カーボンニュートラルに向けて、かなりの施策を実施していかなければならない。

【No. 3】LED街路灯の導入

- ・計画期間の途中で目標を達成し、現在は新たな事業として道路照明等のLED化に取り組んでいることについて、コメントとりまとめに記載してほしい。
→記載する。

⇒地球温暖化対策分野について、いただいたご意見をコメントとりまとめに反映することで承認された。

<自然環境分野（シート No. 6～9）について>

【No. 7】市民ふれあい交流事業（ミニ直売所）

- ・令和元年度に補助事業が廃止され担当課の自己評価がない事業について、推進会議として、実態が分からないものに対して評価を行うのはどうなのか。
→事業としては廃止されたものの、生産者と消費者のふれあい交流は環境基本計画に定める地産地消の推進につながることから、他の事業での推進を図ってほしい。
⇒問題提起としての意味も込めて、推進会議としての評価コメントを行う。

⇒自然環境分野について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

<歴史環境分野（シート No. 10～12）について>

【No. 11】 なら工芸館入館者数

- ・この指標が環境基本計画の指標としてふさわしいのかという議論があった。
- ・歴史環境分野として、奈良市独特の指標として重要なポイントではあるが、次期計画においては指標となっていない。施策の推進についてどのように点検・評価するか、今後検討する必要がある。
- ・事業やイベントの実施について、できない理由にコロナを使うのではなく、ポジティブなチャンスとして活用してもらいたい。コロナだから出来るということもあるため、今後に期待したい。

⇒歴史環境分野について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

<生活環境分野（シート No. 13～17）について>

【No. 13】 光化学オキシダント環境基準の達成率

- ・奈良市だけでは対策が難しい指標である。国、県及び近隣自治体と連携して何ができるのか、今後どうしていくのか、これからの課題である。
- ・主に中国などの大陸から来ている黄砂の影響によると思われるが、公害問題との関連付けとして重要な指標である。
- ・光化学スモッグ注意報などが発令されることにより、学校教育や生活に影響があることから重要な問題である。

【No. 16】 ダイオキシン類対策特別措置法に基づく特定施設の立入調査

- ・コメントとりまとめ案では非常に厳しい表現となっているが、新型コロナウイルスの影響により立入調査が出来なかったため単年度目標を達成できなかったという理由があるため、もう少しやわらかい表現にしてはどうか。
- やわらかい表現に修正する。

⇒生活環境分野について、いただいたご意見をコメントとりまとめに反映することで承認された。

<資源循環分野（シート No. 18～23）について>

【No. 18】 ごみ搬入量

- ・ごみ懇談会に参加し、奈良市の家庭系可燃ごみの組成分析の現場に立ち合わせていただ

いている。令和3年度は食品ロスが減少し、食品ロス削減が浸透してきていると感じている。一方、大量に排出される紙おむつが家庭系可燃ごみに排出されているため、リサイクルできないかという問題が挙がっている。

- ・自治体によって分別区分が異なるため難しい問題である。また、奈良市は高齢化しているのに、これ以上分別区分を増やしていくのかといった意見もある。全部燃やして得られるエネルギーを活用したら良いという意見もある。

【No. 19】 産業廃棄物の最終処分率

- ・平成30年度以降、実績値を集計できなくなったということだが、それ以降、把握方法の検討が進んでいない。
- ・計画策定時に指標として出し、その趣旨に沿って担当課がどのように推進したかを評価する部分である。今後、施策の進捗状況として自己点検・自己評価を構築していく必要がある。

⇒資源循環分野について、いただいたご意見をコメントとりまとめに反映することで承認された。

<都市環境分野（シート No. 24～30）について>

【No. 24】 住宅の耐震化率

- ・各耐震補助事業の募集件数まで達しないのが現状とのことだが、耐震化に併せて断熱化も行うなど、2つの施策を合わせて実施すれば活用する人が増えて推進していくのではないか。
- ・住宅の耐震化率向上を図るため、耐震化だけでなく、断熱化やバリアフリーも含めた横断的な視点で補助事業を進めてもらいたい。
→今年度、ゼロカーボン戦略策定に当たり、全庁的にゼロカーボンの視点で各事業を推進してもらうよう庁議で報告した。今後、新規予算で提示される各課の施設改修等の事業について、財政課において断熱・省エネの観点で促進できるのかチェックしていく。

⇒都市環境分野について、いただいたご意見をコメントとりまとめに反映することで承認された。

<環境教育分野（シート No. 31～33）について>

【No. 33】 環境保全活動に参加したいと思う市民の割合

- ・前年度からの進捗がないのはなぜか。
→前回のアンケート実施年度が平成 28 年度であることから、前年度からの進捗については「-」と記載している。
- ・アンケートの「環境保全活動に参加したいと思う市民の割合」について、「環境」の範囲が分かりにくいのではないか。
- ・マイバッグ持参などの行動も、環境に配慮した商品を購入するエシカル消費も環境保全活動に当たると思われる。買い物における環境配慮行動は市民も参加しやすい。
→今後、アンケートを実施する際には、市民に分かりやすい表現となるよう検討する。

⇒環境教育分野については、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

<全分野の総括について>

- ・今年度は 10 年間の総括ということで、推進会議参加者の意見が非常に膨大なものとなっていたが、おおむね良くとりまとめされている。
 - ・現計画の評価をする中で議論してきた一律に数値で評価できない施策について、次期計画において評価方法を検討・改良する必要があることについて、総括の最後に入れてもらいたい。
→評価方法の検討・改良について追記する。
- ⇒全分野の総括について、いただいたご意見をコメントとりまとめに反映することで承認された。

⇒いただいたご意見を集約してコメントとりまとめ案を修正し、推進会議参加者へメールで確認を依頼する。

(2) 第3次奈良市環境基本計画の推進について

昨年度、策定した「第3次奈良市環境基本計画」においては奈良市環境ビジョンを実現するため、5つの分野に沿った基本方針を設定し、施策を推進することとしている。計画の推進に当たり、今年度、当課で実施している2つの事業「奈良市ゼロカーボン戦略策定」及び「市民ワークショップ」について説明を行った。

奈良市ゼロカーボン戦略策定スケジュールについては、プロポーザルにより委託事業者を選定し、株式会社エックス都市研究所に委託して、現在、基礎情報の収集及び現状分析を行っているところである。今年度中の委託期間内にゼロカーボン戦略の素案を作成していただ

き、その後、パブコメを実施し、来年度当初に策定・公表を行う予定である。推進会議については、今年度第2回を1月末頃に実施予定であり、素案の原案を見ていただき、ご意見をいただければと考えている。

市民ワークショップについては、「第3次奈良市環境基本計画」に掲げる基本方針の1つ「すべての主体の学びと参加・協働による暮らしの変革」において目指す「地域への愛着心や環境意識が高まり自発的に行動する人が増え、持続可能な地域づくりが広がるまち」を実現するために、今年度「動き出すSDGs 2050 持続可能な地域を一緒につくるワークショップ」を開催した。全3回異なるゲストをお呼びした講演とワークショップで33名の応募があり、各回およそ20名程度の参加者で、全3回のワークショップすべてに参加いただけた方は10名ほどであったが、第1回で感性を開き、第2回でサーキュラーな視点を学び、第3回で実践者の講演とパネルディカッションから具体的な事例を学び、参加者自らが奈良市の資源と課題をかけ合わせて事業を構想することで、持続可能な地域の第一歩を形作ることができた。今後も何らかの形で、動き出す人を応援するという「第3次奈良市環境基本計画」のコンセプトに沿った形の事業を実施することができればと考えている。

○質疑・意見の要旨

- ・【資料5】「奈良市ゼロカーボン戦略策定について」6ページ 脱炭素を実現するための具体的施策の検討において、省エネ・再エネ導入の両面から検討すると記載されているが、森林吸収の具体的施策については何か検討されているのか。
→所有者不明の森林が多いことや、間伐した木を伐りだすための道が整備されていないなどの課題があり、現状として森林が活かされていないという問題がある。森林面積などのデータから吸収量を算定し、施策提案ができるように持って行きたいと考えている。
- ・照度、樹種、樹齢によっても吸収量は異なる。放置森林は逆に温室効果ガスを排出しているかもしれない。
- ・奈良県は今年度、「脱炭素社会実現プラン」を策定する予定で、①温室効果ガス排出量削減、②森林吸収量の2つを軸にプランを策定すると聞いている。

以上